



Title	2025年度 意匠学会賞選考結果報告
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 2026, 88, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/106181
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2025 年度 意匠学会賞 選考結果報告

学会賞選考委員会
委員長 伊原久裕

受賞者

多田羅景太

受賞業績

デンマーク近代家具デザインに関する一連の研究ならびに実践活動

現代において、デンマークの近代家具デザインは広く世界に認知され、その歴史についても研究の蓄積がある。そうしたなかで多田羅景太氏は、デンマークへの留学以来、同国の近代家具デザインについての研究を一貫して進められ、現地での聞き取り調査、資料収集に基づいた研究成果を発表されてきた。多田羅氏の研究の特徴は、近代家具デザインにおける組織的特徴、社会的受容のあり方などその社会的側面に焦点を合わせた多角的な考察にあり、20 世紀初頭から今世紀に至るまでのデンマークの近代家具デザインの歴史的流れを詳細に跡づけられてきた。加えて、今世紀に入り問題となってきた「ジェネリック家具」の登場という現象についてもそれまでの歴史研究の蓄積を踏まえて考察され、その知見は現代における家具デザインのあり方を考えるうえで示唆に富むものとなっている。こうした研究を元に著書『流れが分かる！デンマーク家具のデザイン史』（単著、誠文堂新光社、2019 年）を出版された。同書は一般向けでありながら、氏の研究の全体像を俯瞰できる専門性の高い内容を有している。なお、多田羅氏の以上の研究は、『デザイン理論』において 3 篇の論文として発表されており、本学会への貢献度も高い。

以上の歴史研究と平行して、多田羅氏はインテリアデザインの専門家としても活動され、キッズ用チェア《CRESCENT（クレセント）》（平成 29 年度意匠学会作品賞受賞）をはじめとする作品制作も手がけられてきた。こうした研究とデザインの二面性を活かした氏の特徴的な業績として、デンマーク近代家具デザインを日本へ紹介する展覧会へのここ数年の協力活動が挙げられる。その代表に、2022 年に東京都美術館で開催された企画展「フィン・ユールとデンマークの椅子」への学術協力ならびに会場デザインがある。さらに、2024 年 12 月 21 日から 2025 年 1 月 19 日にかけて京都・両足院で開催された「ポール・ケアホルム展 in 京都」（主催：フリッツ・ハンセン）において、多田羅氏の研究室の学生を中心

に準備・運営に関わられている。

以上のように、デンマーク近代家具デザインに関する多田羅氏の一連の研究ならびに実践活動は、当該分野において傑出しており、なおかつ本学会にも関わりの深いものであることから、意匠学会賞にふさわしい業績として高く評価される。

なお、学会賞選出にあたっては、多田羅氏については2025年度に選考委員会において推薦があったが慎重に検討を進め、2026年1月24日に選考委員会を改めて開催し、協議を行った。その結果、全員一致で多田羅氏の選出に至った。